

三井E&Sグループ※の事業基盤強化計画(抜粋)

※(株)三井E&S、(株)三井E&S DU

企業概要

- 旧三井物産(株)造船部として1917年に創業。1928年にディーゼル機関1号機を製造して以来、90年以上の長きにわたりエンジン製造に取り組んでおり、2021年3月には製造実績が累計1億1,000万馬力・7,000台を超え、現在の国内シェアは58%で日本でトップを誇る。
- 2023年4月には、(株)IHI原動機より船用大型エンジン事業を承継した(株)三井E&S DUをグループに迎え、MAN Energy Solutions 社(ドイツ)にWinterthur Gas & Diesel社(スイス)を加えたダブルライセンス体制となった。



計画の概要

- 中核製品である船用エンジンの開発体制・生産体制の強化及び製品ラインナップの拡充に取り組む。
- 具体的には、アンモニアと重油、メタノールと重油、メタンスリップ対策を講じたLNGと重油等の二元燃料エンジンを核とした環境対応型エンジンを開発・拡充し、新たなグリーン製品として生産を強化する。
- また、ダブルライセンス体制の構築により製品ラインナップを拡充することで、多様化する顧客ニーズに対応するとともに、両工場におけるリソースの効率的な活用による生産性の向上や、アフターサービスの強化を図る。



<計画実施期間> 2023年6月～2026年3月

<実施場所> (株)三井E&S 船用推進システム事業部 玉野工場(岡山県玉野市)
(株)三井E&S DU(兵庫県相生市)